

ガッコ親父の

昔々、とある大金持ちの屋敷で、この藩の疫病明けということもあり、久しぶりの祝宴が開かれることになった。屋敷の主人は奥方に言った。「藩のえらいさんもおいでになるので、我が家宝の皿でもてなそう」。わかりましたと奥方は背筋を伸ばした。

屋敷にはこの春より奉公に上がっていたお菊という若い娘がいた。お菊は誰よりも働き者で、奥方のお気に入りだった。奥方は「今度の宴会に使う大切な十枚セットの皿なので、よく磨いておきなさい」とお菊に命じた。

お菊はそその無いようにと、皿を慎重に拭き上げていった。しかし最後の一枚を拭き終わろうとした時、急に「にやー」という大きな鳴き声とともに、猫が目の前を跳びはねた。お菊は驚き、手元から皿を落とした。ガッチャーン。割れた皿を手に、奥方の部屋に詫びに行った。「あゝ、大宴会が台無しだわ」と奥方は血相を変えた。

その猫はお菊がたいそう可愛がっていた猫だった。猫がひどい仕打ちを受けないように、優しいお菊は最後まで猫のことは伏せていた。

報告を受けた主人はお菊を厳しく折檻するように奥方に言いつけ、土蔵に閉じ込めてしまった。嘆き悲しんだお菊は隙を見つけて土蔵の横の井戸に身を投げてしまった。

すると、その日以来、奥方が寝ようとするやいなや夜な井戸の方から「一まゝい、二まゝい」と悲しげな娘の声が聞こえてくるようになった。そしてきままつたように「九まゝい」の後に、シクシクと泣き出した。十枚目が見つけられないらしい。魂が迷っていた。

鳥肌が立つような細かい声はお菊の声そのものだった。奥方は夜ごとの声に心を取り乱してしまい、体調も悪化。ついには命を失くしてしまった。災いは主人にも及び、憔悴しきったが、やっこのことで名だたる高僧である松次郎に救済を依頼した。

松次郎はコトの顛末を聞き出すと、「お任せください」と頷いた。「ただ一つだけお願いがあるのですが、『もの』よりも大切なのが『人』です。もちろん家宝の皿も大切ですが、だからと言って人を死に追いやってしまうことなど言語道断です。金輪際こんなことをしないと、お菊の亡霊に誓ってください。亡くなったあなたの奥方の分まで誓ってください。主人は深く息を吐き出し、首を垂れた。

次の夜、松次郎は毎晩現れるお菊の亡霊の前に立った。「九まゝい」と数えた後、戸惑っているお菊の亡霊に「十まゝい」と松次郎は声をかけてあげた。「えっ、十枚目があったんですよ、ね？お坊さん。私、嬉しい」と声を弾ませて、お菊の亡霊は幸せそうに消えていった。それ以来、井戸に現れ、主人を悩ますことも無くなった。

約束通り、主人は使用人に対しての態度を一八〇度変え、気持ち悪いくらい優しくなったという。

この屋敷の主人のように大の大人の性格がころっと変わるなんて、それこそ本当にありえないほどの怖い話だ。松次郎は怪談話以上だと思っただけ、相談を受けながら『しまっちゅ伝蔵』を主人と二人で飲んだことがよかったのだらう。良い酒は人の心に善良な明かりを灯し、行くべき道を指し示してくれるというではないか。

この酒がそうなのである。松次郎は思わず頬擦りしてしまった。良い酒に乾杯！

奄美黒糖焼酎

しまっちゅ伝蔵

でんぞう



常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



900ml (25%) 1800ml (25%) 1800ml (25%)

喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
TEL 0997(65)0251



the most beautiful villages in japan
喜界町 鹿児島県

25度 好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



「皿屋敷」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。